

## 令和5年度 北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

この調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しています。しかし、調査は実施教科が小学校・中学校ともに限られた教科のみで、学習指導要領の内容全てを網羅するものではありません。結果は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部分であることや学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要があります。この結果のみで、学校や児童生徒を評価できるものではありません。

また、北斗市教育委員会では、例年同様、市全体及び中規模・大規模の小中学校の調査結果のみ公表いたします。今後も、北斗市の学校は、保護者、地域と一体となって学力向上や学習環境の整備に取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

北斗市教育委員会

### 1. 調査の対象と調査内容

校種	対象	教科	調査方法	調査日
小学校	第6学年児童	国語・算数	しっかい 悉皆調査	令和5年 4月18日(火)
中学校	第3学年生徒	国語・数学・英語		

次の①と②を一体的に問う調査問題

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

### 2. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 児童生徒に対する調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
- ② 学校に対する調査～指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

## 小学校

### ① 小学校各教科の平均正答率(%) 6年生 351人

#### 1. 教科に関する調査

	国語	算数	合計
北斗市	64	60	124
北海道	66	61	127
全国	67.2	62.5	129.7
道との差	-2	-1	-3
全国との差	-3.2	-2.5	-5.7

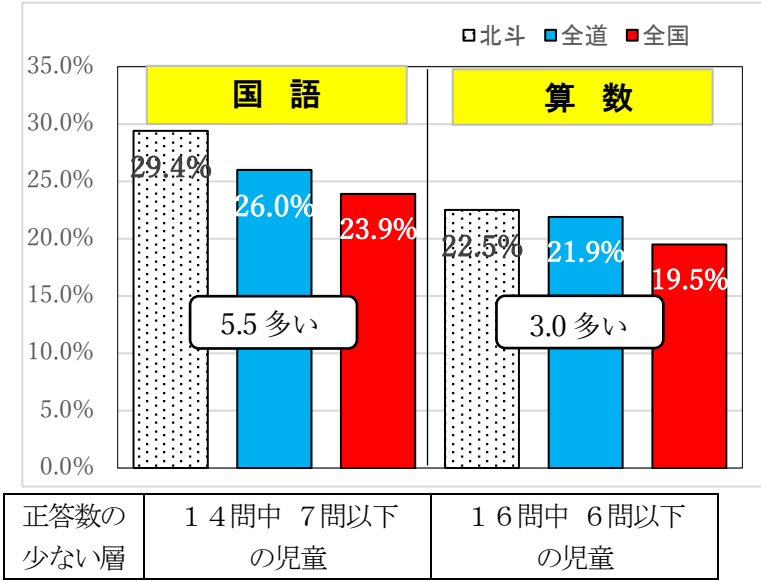
国語・算数ともに、全国・全道平均を下回り、昨年より差が広がりました。

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値

### ② 学習指導要領の内容からみた傾向(分類別正答率)

	国語			算数			
	北斗市	北海道	全国	北斗市	北海道	全国	
言葉の特徴や使い方に関する事項	67.3	69.7	71.2	数と計算	62.9	64.4	67.3
情報の扱い方に関する事項	60.0	61.8	63.4	図形	46.9	48.7	48.2
話すこと・聞くこと	71.9	72.0	72.6	変化と関係	67.7	69.0	70.9
書くこと	20.2	23.5	26.7	データの活用	65.2	63.9	65.5
読むこと	68.9	69.7	71.2				

### ③ 「正答数の少ない層」の割合

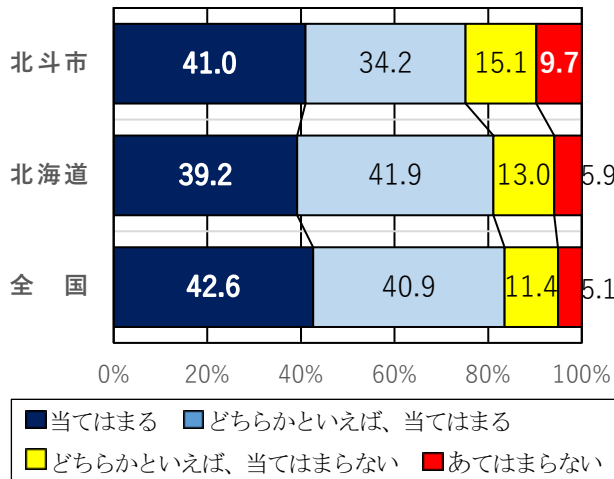


北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。

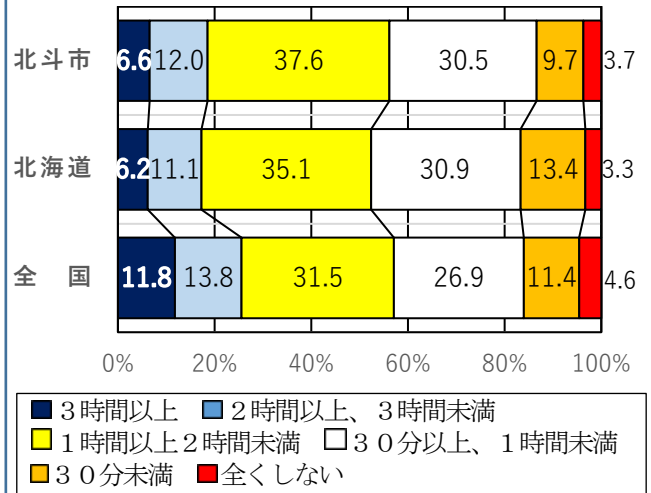
「正答数の少ない層」の割合は、少ないほど望ましいこととなります。今年度、小学校では、「正答数の少ない層」が、国語で5.5%、算数で3.0%、全国より多くなり、目標を達成することはできませんでした。

## 2. 児童への質問紙調査

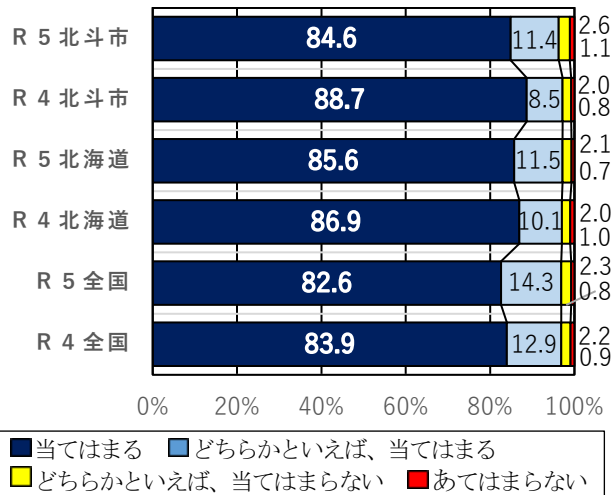
### ① 自分には、よいところがあると思いますか



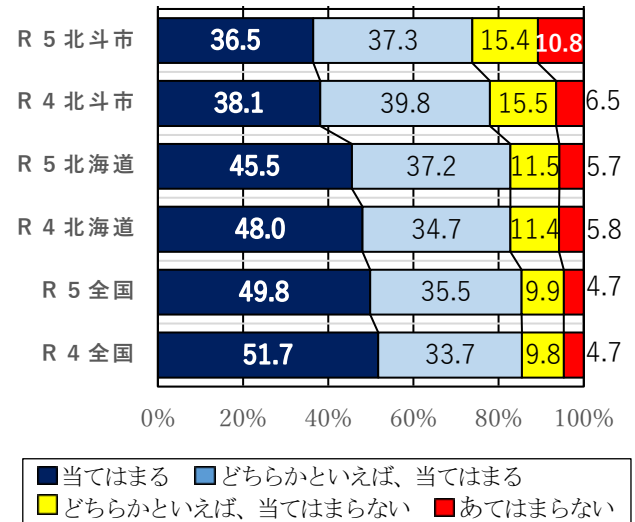
### ② 学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



### ③ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



### ④ 学校に行くのは楽しいと思いますか



質問紙調査の中から（以下の○数字は、上のグラフと対応しています。）

- ①「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えている児童の割合が、全道を上回っています。しかし、24.8%の児童が否定的な回答で、全国・全道を上回っています。
- ②1時間以上、家庭学習をしている児童の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した児童は、全道・全国を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。
- ③過去の調査では、いじめは絶対いけないという意識は、全道・全国より高いものがありました。しかし、今年度は、全道を下回りました。また、否定的な回答は、全道・全国を上回りました。過去には、見られなかった結果です。
- ④コロナ禍の一昨年は、楽しいと感じる児童の割合が大きく減りましたが、昨年、多少回復しました。しかし、今年度また、楽しいと感じる児童の割合は減少しました。否定的な回答も多く、改善していかねばならない課題です。

※その他、「朝食を毎日食べている児童の割合」は、年々下がっており、北斗市73.5%（昨年77.7%）、北海道80.7%（昨年81.5%）、全国83.7%（昨年84.9%）と全道、全国を下回っております。

また、昨年度まで、あったゲームやスマホなどの時間に関する調査は、今年度は、ありませんでした。

### 3. 学力向上の取組

市内各小学校では、それぞれの学校で結果を分析し、実態に合わせた改善に取り組んでいます。

#### ①わかりやすい授業のために

- ・音読の時間を設定する。
- ・教科担任制や少人数指導などにより、授業の質の向上を図る。

#### ②児童の学習意欲向上のために

- ・全校で短作文に取り組み、継続的な校内掲示を実施する。
- ・基礎的な学力を底上げするため、朝学習やサポート学習を実施する。
- ・読書の面白さ、楽しさを味わえる体験を実施する。（読書マラソン・ブックトーク・読み聞かせ・朝読書・家読書・市立図書館との連携など）

#### ③学習内容の習得・定着のために

- ・条件に合わせて、資料を活用して、考えをまとめたりする力を培うため、全校で条件付き作文に取り組む。
- ・「めあて」「まとめ」だけでなく、「振り返り」の時間を確保し、学びの深化に努める。

#### ④児童が主体的・対話的で深い学びに向かうために

- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。
- ・表現力を向上させるため、「振り返り」や「交流の時間・場」を確保する。
- ・「学習のきまりチェックシート」等の取組を児童が主体的に考え、実行できるよう工夫する。
- ・子どもたちに、「やりきる」活動を保障する。

#### ⑤ICT機器を活用して

- ・ICTを活用し、学習の記録やまとめを行う。
- ・ネットドリルを活用する。

#### ⑥その他の取組

- ・家庭学習の具体例を提示するなど、自学自習に向けて指導を行う。

	国語	算数	合計
A	63	57	120
B	67	65	132
C	63	58	121
D	64	59	123

## 中 学 校

### ① 中学校各教科の平均正答率 (%)

3年生 379人

#### 1. 教科に関する調査

	国 語	数 学	英 語	合 計
北 斗 市	68	47	43	158
北 海 道	69	49	44	162
全 国	69.8	51.0	45.6	166.4
道との差	-1	-2	-1	-4
全国との差	-1.8	-4.0	-2.6	-8.4

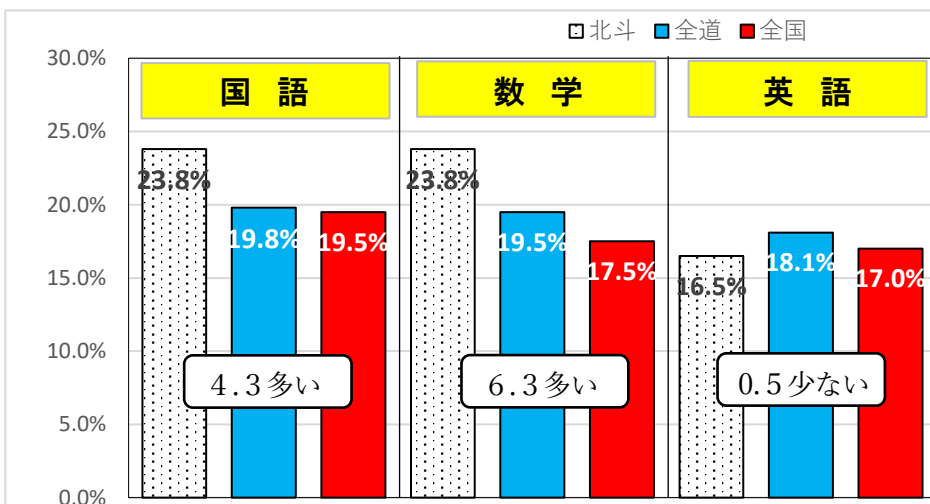
国語・数学・英語の全教科で、全国・全道平均を下回りました。国語・数学で昨年度より差が広がり、英語で前回実施の平成31(令和元)年度より差が縮まりました。

※北斗市・北海道の各教科の平均正答率は国が公表した整数値

### ② 学習指導要領の内容からみた傾向 (分類別正答率)

国 語			数 学				
	北斗市	北海道	全 国		北斗市	北海道	全 国
言葉の特徴や使い方に関する事項	64.6	66.4	67.5	数 と 計 算	58.9	61.7	63.0
情報の扱い方に関する事項	60.4	63.7	63.4	図 形	28.4	32.9	33.2
我が国の言語文化に関する事項	71.6	74.5	74.7	変 化 と 関 係	48.8	49.7	51.2
話すこと・聞くこと	80.4	81.8	82.2	デ ー タ の 活 用	41.6	44.5	48.5
書 く こ と	60.9	62.1	63.2	英 語			
読 む こ と	61.8	63.3	63.7		北斗市	北海道	全 国
				聞 く こ と	58.1	58.1	58.4
				読 む こ と	46.9	48.7	51.2
				書 く こ と	18.5	21.1	23.4

### ③ 「正答数の少ない層」の割合



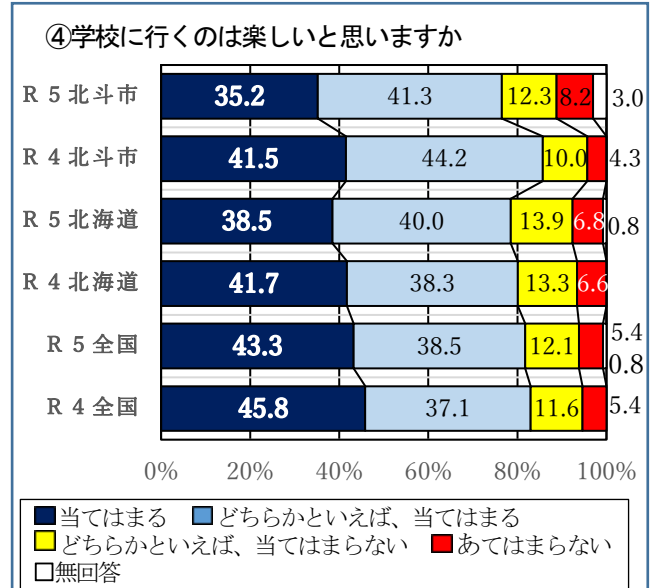
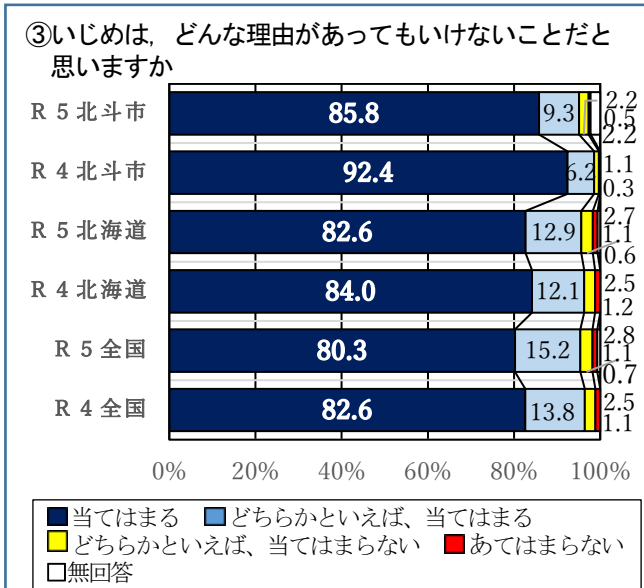
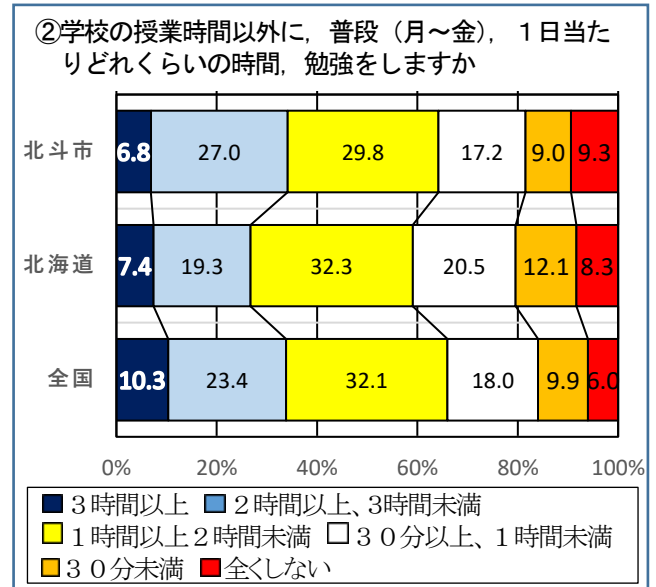
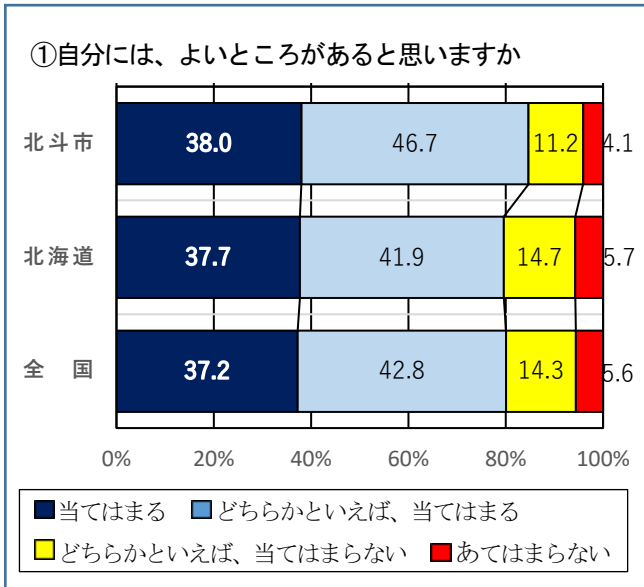
正答数の少ない層	15問中 7問以下の生徒	15問中 3問以下の生徒	17問中 3問以下の生徒
----------	--------------	--------------	--------------

中学校でも、「正答数の少ない層」を減らす努力をしています。

今年度は、国語で4.3㊦、数学で6.3㊦、全国より多くなりましたが、英語で0.5㊦少なくなりました。平均正答率が、全国を下回った英語で、「正答数の少ない層」が全国より少なかったということは、英語に関しては、ある程度、底上げが図られたと言えます。

## 2. 生徒への質問紙調査

### ① 学習や生活習慣についての質問



質問紙調査の中から（以下の○数字は、上のグラフと対応しています。）

- ①「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている生徒の割合が、全国・全道を上回っています。
  - ②1時間以上、家庭学習をしている生徒の割合は、全道を上回り、ほぼ全国平均並みです。30分未満または、全くしないと回答した生徒は、全道を下回り、家庭学習の時間はある程度確保されています。
  - ③過去の調査では、いじめは絶対いけないという意識は、小学生と同様、非常に高いものがありました。今年は、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、全道・全国を上回ったものの、北斗市としては、昨年度より6.6ポイント下がりました。
  - ④小学生同様、コロナ禍の一昨年は、楽しいと感じる生徒の割合は、大きく減少しましたが、昨年、多少回復しました。しかし、今年度また、楽しいと感じる生徒の割合は、減少しました。否定的な回答も多く、改善していかなければならない課題です。
- ※その他、「朝食を毎日食べている生徒の割合」は、年々下がっており、北斗市73.0%（昨年77.8%）、北海道75.4%（昨年77.4%）、全国78.6%（昨年79.9%）と全道、全国を下回っております。

また、小学校と同様、昨年度まで、あったゲームやスマホなどの時間に関する調査は、今年度は、ありませんでした。

「授業の内容はよく分かる」に「当てはまる」と回答した生徒の割合が、国語、数学、英語の全てで、全国・全道を上回っており、今後、学力の向上に波及することが期待されます。

### 3. 学力向上の取組

市内各中学校では、それぞれの学校で結果を分析し、実態に合わせた改善に取り組んでいます。

#### ①わかりやすい授業のために

- ・習熟度に応じた少人数によるコース分けを行い、理解度に合わせた授業を展開する。
- ・3K（考える・会話する・行動する）授業を行う。
- ・授業の中に「考える場」「判断する場」「行動する場」を設定して取り組む。
- ・生徒による授業評価（アンケート）を実施する。
- ・問題の状況が理解できているかを細かく確認、説明する。
- ・全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、「授業アイデア例」を活用する。

中学校3校の平均正答率(%)

	国語	数学	英語	合計
A	66	47	40	153
B	65	43	39	147
C	73	51	50	174

※各校の正答率は国が公表した整数値

#### ②生徒の学習意欲向上のために

- ・シラバス（計画と振り返り）を作成・活用し、「目標」と「何ができるようになるか」を生徒と共有しながら見通しを持って学習活動を進めている。
- ・学校と家庭の学習をつなげる活動を毎日行う。

#### ③学習内容の習得・定着のために

- ・記述問題について答え方・書き方の練習を繰り返し行い、生徒同士の教え合いの場も設ける。
- ・記述での答え方に慣れるため、さまざまな条件のもとに文章を書く機会を設ける。
- ・課題、まとめ、振り返りを明確にし、学習の定着を図る。
- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るため、T・Tによる授業を実施している。
- ・基礎・基本の定着のため、全国学力・学習状況調査問題の振り返り、解き直しを実施している。
- ・問題演習の際に、教え合い、学び合いを入れ、定着に結びつける。
- ・英語で、語順定着、文法の確認、書く演習のためにペア・グループ、発表活動を取り入れている。

#### ④生徒が主体的・対話的で深い学びに向かうために

- ・学んだことを自分の言葉でまとめたり、人に教えたりするなど、アウトプットを意識した発問や課題の設定を行う。

#### ⑤ICT機器を活用して

- ・ICT機器を活用して、多様な考え方を共有する授業を行う。
- ・試験前の生活習慣について、今までは用紙（生活リズムチェックシート）に記入していたが、グーグルフォームに入力し、把握と分析を行えるよう、改訂を進めている。

#### ⑥その他の取組

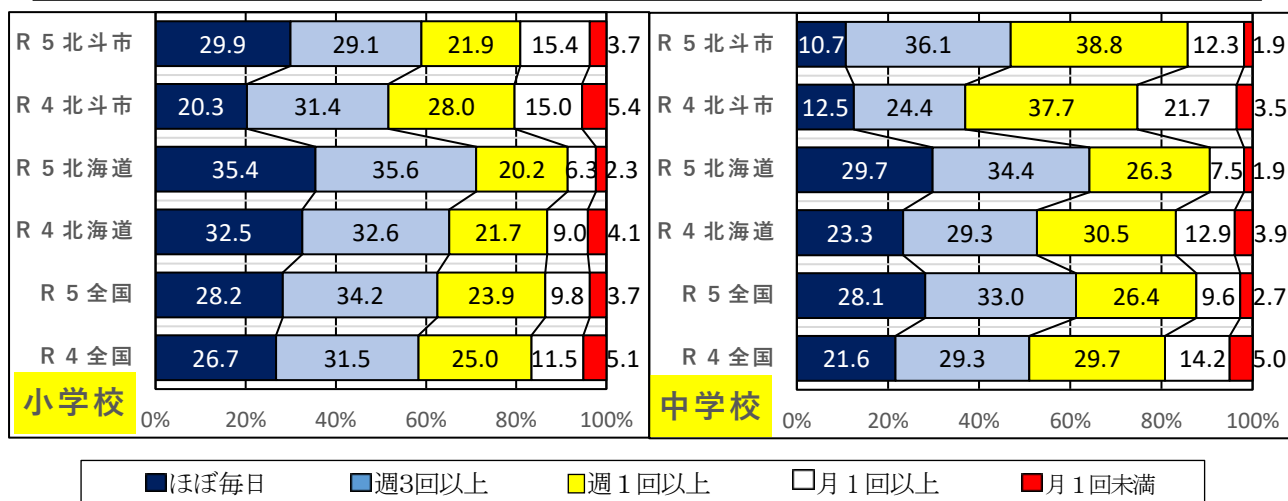
- ・家庭学習の具体例を提示するなど、自学自習に向けて各学年に応じた指導を行う。
- ・日常的に英語に慣れさせるためオールイングリッシュ的要素を取り入れた授業を行う。
- ・学習環境の整備を行う。



## 1人1台端末の活用について

○今年度も、1人に1台整備されたICT端末に関する質問が重点的に設定されました。

5年生(1、2年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



- 使用頻度だけで、活用が効果的かどうかは測れるわけではありません。しかし、多様な活用をするためには、日常的に文房具のような使われ方をする必要があります。北斗市では、小学校で全国並みの使用頻度、中学校は全国・全道に比べて低い使用頻度でした。
- 「3. 学力向上の取組」にありますように、各校では、工夫した取組が行われ、今後、効果的な使用が期待されます。

## 子どもたちの健やかな成長のために

- 今年度の調査で、北斗市の子どもたちは、全ての教科で、全国・全道平均を下回りました。これは、小学校で平成24年以来、中学校で平成26年以来のことです。小中がそろって下回るのは、この全国調査が始まって2年目の平成20年以来となります。各学校では、こうした調査結果を重く受けとめ、実施学年の学力の保障と学校全体の学力向上に向けて取り組んでいるところです。質問紙調査で、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問に、「当てはまる」と答えている児童生徒の割合が、全国・全道を上回っています。学校は、学力の向上のため、この姿勢を維持してまいります。
- 小学生は、「友達関係に満足している」「国語の勉強は好き」という回答が、全国・全道を上回っています。中学生は、「人が困っているときは、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という回答が、全国・全道を上回っています。このように、北斗市の子どもたちは、心優しく、前向きにがんばっています。
- そんな北斗市の子どもたちを心豊かに育てていくため、各ご家庭におかれましては、子どもたちが安心できる環境を、市民の皆さまにおかれましては、温かい励ましをお願いいたします。